

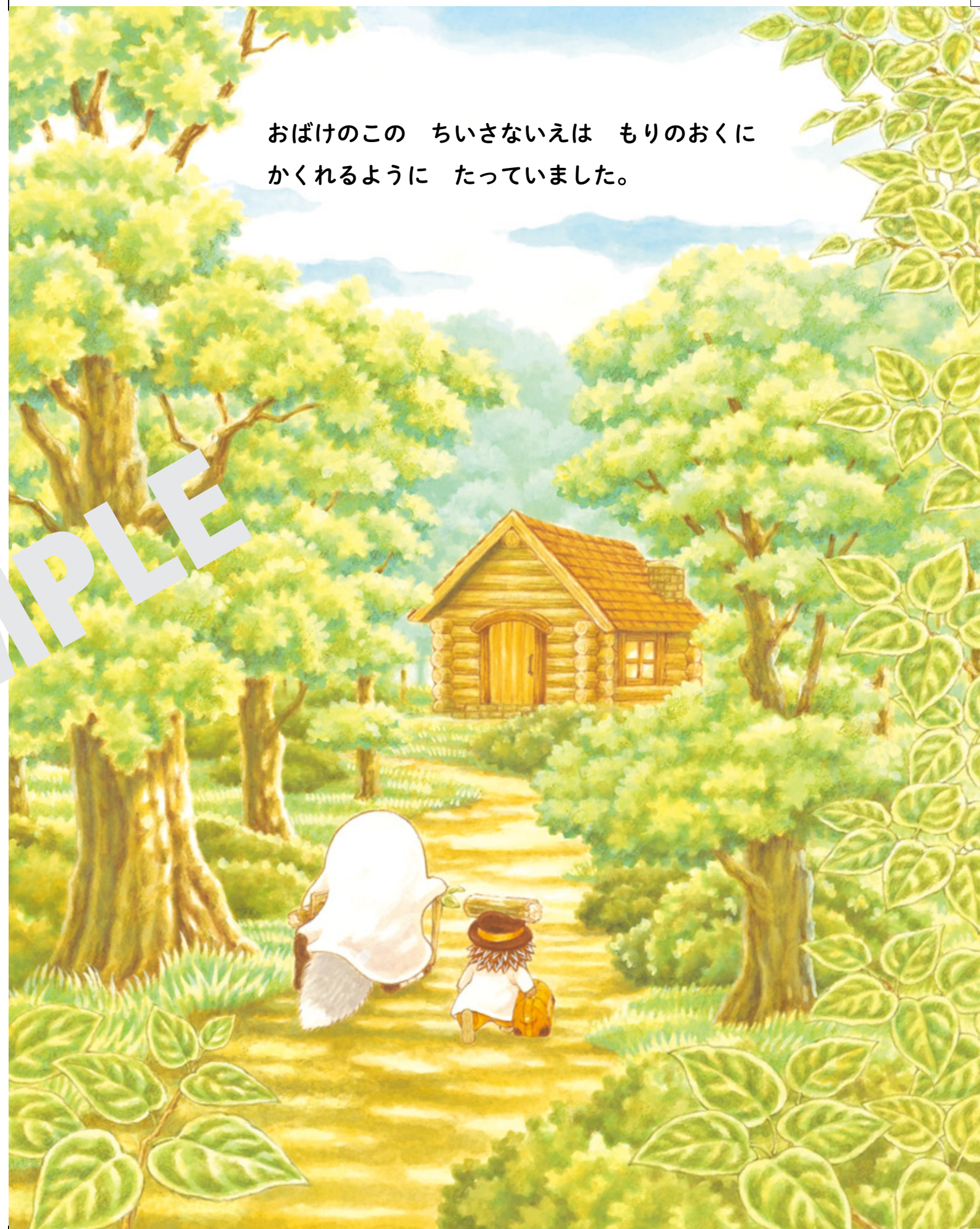
おばけのこは ふらふら たちあがると、あしもとをみて いいました。
「このえだ、せっかく あつめたのに ぜんぶ もってかえれないな」



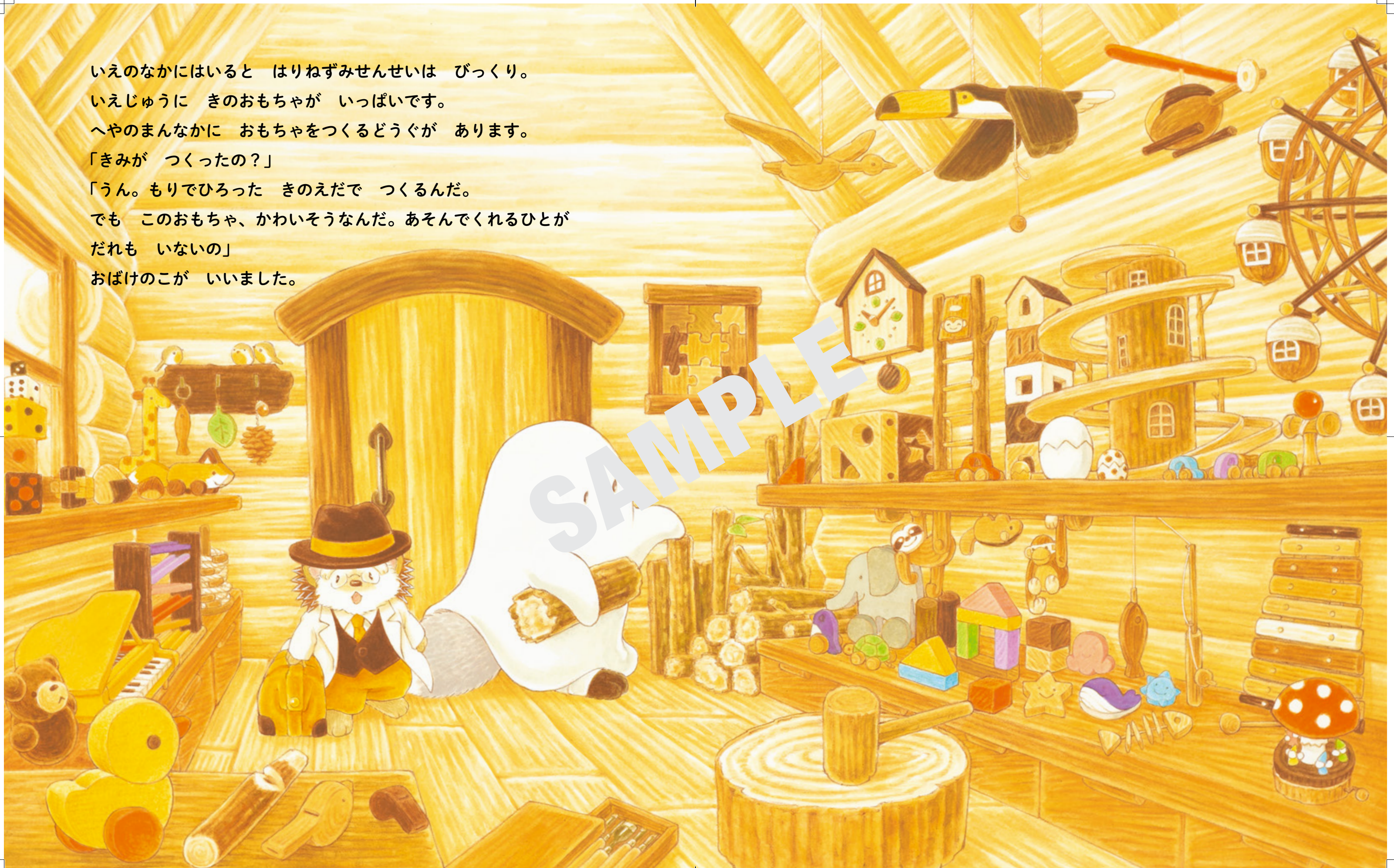
はりねずみせんせいは いちばん おおきなえだを
あたまにのせると いいました。
「よければ いえまで はこびましょうか？」
「ありがとう」
おばけのこは いいました。



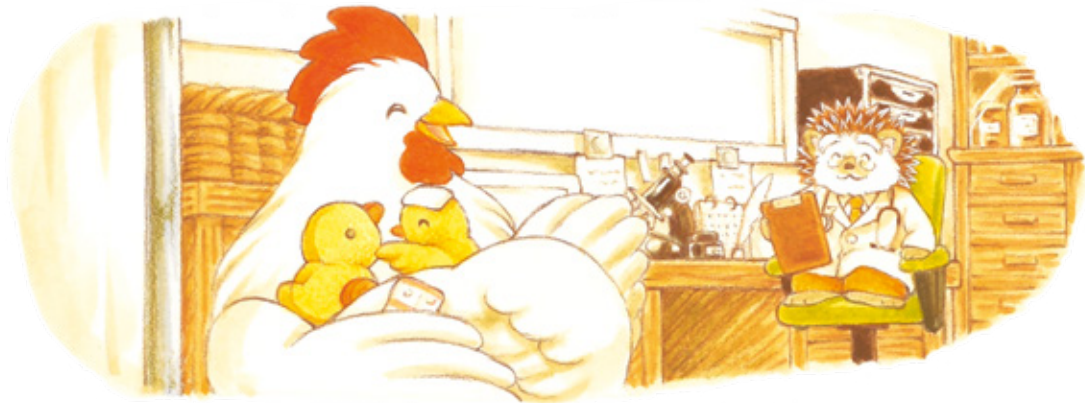
おばけのこの ちいさいいえは もりのおくに
かくれるように たっていました。



いえのなかにはいると はりねずみせんせいは びっくり。
いえじゅうに きのおもちゃが いっぱいです。
へやのまんなかに おもちゃをつくるどうぐが あります。
「きみが つくったの？」
「うん。もりでひろった きのをで つくるんだ。
でも このおもちゃ、かわいそうなんだ。あそんでくれるひとが
だれも いないの」
おばけのこが いいました。



かぜひきの　ぴーちゃんが　えらんだのは　ひよこのおもちゃ。



きからおっこちた　さるさんには　はしごのおもちゃ。



うたいすぎてのどをからした　おおりさんには　ピアノのおもちゃ。



おばけのこの
きのおもちゃをわたすと、
どのかんじゃさんも　えがおになって
かえっていきます。
「みんなのえがおを
みせてあげたいなあ」
はりねずみせんせいは
おばけのこのことを　おもいました。